



北斗句会

二月定例会（三日 メール句会）

兼題 「寒」「魚」

五十音順

特は特選 石田きよし選

さあ喰へと居直りたるや寒の鯛

大崎石州

河豚刺しや白身に透ける皿模様

太田黒幸風

日は西に寒林すでに燃え始む

大森康政

特 豆撒ぎや心のうちもそとへ投げ

竹内雲泉

自転車に積む子走る子母の春

田中資凡

特 皮をむく泥ねぎ楚々と臍たけて

長池豆陽

節分や新ウィルス鬼退治せむ

深見十万

特 コロナ世の闇に一擲鬼は外

藤田紀潮

けふもまた歩みつつ観む残り鴨

宮下ひかる

父の忌にひとり経読む寒さかな

森田光彦

風花の土手をまつすぐ子ら走る

山縣秀雄

立春や古傷の膝曲げ伸ばし

吉岡誠山



白鳥の矜時に犬の後退り

石田きよし